

子育て支援センターすくすく 5年3か月の思い出を胸に



最後のイベントとなった2月28日の子育て講習会。多くの親子が参加し閉所を惜しまました

子育て支援センター「すくすく」が3月で閉所となりました。避難生活が続く中、未就学児を抱える親同士の交流や子育て相談ができる場所を求める声に応え、平成26年12月、村が福島市に開所し、運営してきました。すくすくでは、乳幼児健診、イベントなども開催され、村民はもとより福島市など村外の皆さんの利用も数多くありました。

村では現在、新たな子育て支援センターを村内に整備中です。開所日など詳細は決まり次第お知らせします。ぜひご利用ください。



「大きく育ち花いっぱい村を彩ってほしい」と苗木を贈る丸山秋一福島事務所長（左から2人目）

村をハナモモでいっぱい 苗木の寄贈をいただきました

3月18日、BHNテレコム支援協議会から、紅白のハナモモの苗木、合わせて200本の寄贈を受けました。同協議会からは、仮設住宅や仮設校舎への情報通信機器の設置をはじめ、震災直後から継続的な支援をいただけてきました。ハナモモの寄贈は3年連続3回目で、1年目は大火山に200本、2年目は「いいいてスポーツ公園」に200本を植えていただきました。今回の200本は、新設されるパークゴルフ場に、村民と協力して植樹いただく予定です。



報告会には、事業を活用し個人で自分史を制作した皆さんが集い、思いを語り合いました



個人版「自分史」事業の 編纂報告会を行いました

村は、今年度から、民間の出版社などを利用して個人で「自分史」の本をつくる方に、一律10万円を補助する事業を行っています。この事業を活用した本の完成を受けて、3月25日、交流センター「ふれ愛館」で報告会が行われました。報告会では、本を手にした皆さんが、「夫婦の50年間の歩みを残すことができた」「水の泡のようにこの世を去ると思っていたが、こういう本がつくれて、うれしさに眠れなかった」など、それぞれが自分史にこめた思いを語りました。

革工芸の教室で おしゃれな小物作りに挑戦

2月19日、交流センター「ふれ愛館」で、「いいいてレザークラブ」の方を講師に、生涯学習講座「革工芸教室」を開催しました。15人の参加者は、ほとんどが革工芸の初心者でしたが、裁断された革のキットを使って、プレスレットと小物入れの製作に挑戦しました。講師の方が、材料の扱い方のコツや、間違えやすいポイントなどを伝えながら、参加者の作業を見回り、進み具合に合わせて指導。全員が、約2時間の教室の間に、2点の作品を完成させました。



革の風合いが素敵な小物を製作。男性参加者も教室を楽しみました



TOKYO2020 村の担当者が ホストタウンリーダーに

ホストタウン活動の推進に対する貢献が認められ、総務課企画係の庄司伸也主事が、「内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部」から、2月22日、「ホストタウンリーダー」の表彰を受けました。村とラオス・ドンナイ村の交流事業の担当となって3年。ラオスのホストタウンを務める飯館村において、パラ水泳選手団の合宿受け入れ、飯館中学校「ホストタウンプロジェクト」への協力、取り組みの発信などに努めてきたことが評価されました。



「関わってくださった皆でいただいた表彰。ドンナイ村との交流も途切れることなく継続したい」

昨秋はパラ水泳の合宿を笑顔でサポート。選手の信頼を得ました

元気アップ・ポイント事業 4人の方を表彰しました

2月26日、「いいいて元気アップ・ポイント事業表彰式」が、交流センター「ふれ愛館」で行われました。元気アップポイントは、生涯学習課が実施する事業に参加したり図書貸し出しを利用したりするたびに付与されるポイント。自己研鑽の努力をたたえ、50ポイントを獲得した方を対象に、年1回の表彰を行っています。ポイントは、家族の分を合算することもできます。今回は、50ポイントを達成した4人を表彰し、記念品として、5,000円分のクオカードを贈呈しました。



表彰式に出席した西村美喜子さん（左/深谷）と菅野幸子さん（関根・松塚）。賞状を手記に記念撮影